

紹介文（合作・受講者の掲載許可済み）

山口慎太郎『「家族の幸せ」の経済学』

あなたは帝王切開なんてだめ赤ちゃんには母乳が一番子どもが三才になるまではお母さんが尽きっきりで子育てをしないとダメなどといった偏見やうわさ話を耳にしたことがあるだろうか。

本書はこういった事柄をデータや研究を通して科学的に説明している。また筆者は人間の行動を理解し幸せにつなげるための枠組みである経済学を通して事案について考え家族の幸せというものの真実をとらえようとしている。本書は家族の成立から子育てまで各分野について章立てされデータや科学的根拠を基に「幸せとは何か」を問うている。

客観的な視点から著されているため現時点で自分の家庭を持っていない高校生が本書を読み進めながら理想の家庭像を考えられるところが良い。また子育ての経験がない高校生であってもデータから納得できる点が多い点も本書のよい点である。もちろん結婚して子供がいない夫婦や結婚する予定のある人たちにとっても本書は良書である。というのは子育ての方針や家族のあり方を決めておくことで子供が産まれた後などで意見の違いから二人の関係が悪くなるのが減ると思われるからだ。

物事と向き合う時は「事実」と「神話」を見分けることが大事だということを本書は伝えている。データ分析などの結果には大きな説得力があるのだ。データ分析にはこのような利点があるが近年日本の研究のデータ不足と質の低下のため適切な統計調査が難しくなっていると著者は言う。「調査を依頼されるようなことがあればぜひ協力して欲しい」という著者のメッセージに答えていきたい。

塚崎朝子『世界を救った日本の薬』

本書は題名の通り日本発の画期的な新薬がどのように生まれたのかその舞台裏を紹介する一冊である。医学や薬学に興味をもっている人はもちろん部活動や趣味に打ち込んでいる人にも手に取って欲しい。というのは後にも触れる通り強い意志を伴う努力が実を結ぶことを本書は教えてくれるからである。

本書のメッセージはイベルメクチンを発明した大村智氏の言葉「幸運は強い意志を好む」という一文に集約されている。創薬は確率の世界だが決して偶然の産物ではない。意志努力発想力工夫が幸運を味方につけるのである。たとえば本書には癌の画期的な治療薬を開発した本庶佑氏という医師が登場する。これまで癌を薬で治療するのは困難であったが本庶の諦めない心と研究心が幸運を呼び新たな薬に最適な分子の発見に繋がった。このように強い意志は時に運をも味方につけ世界を変える発見や発明を可能にすることを読者に示しているのである。また大村氏は通勤時の日課としてスプーン一杯の土を採取することを続けたが有望な新規物質はほとんど見つからなかった。だが彼はそこで諦めない。彼はつ

いにゴルフ場から採取した土にイベルメクチンにつながる放線菌を発見したのだった。このように強い意志があってはじめて幸運を味方につけることができる。

これらの事例は創薬のみに当てはまるわけではないだろう。部活動や趣味においても好奇心を大切に、好きなものを突き詰めていくことで奇跡のような成功が得られることを本書から学んで欲しい。